決算説明資料

2018年5月期　決算期（2017年6月1日～2018年5月31日）

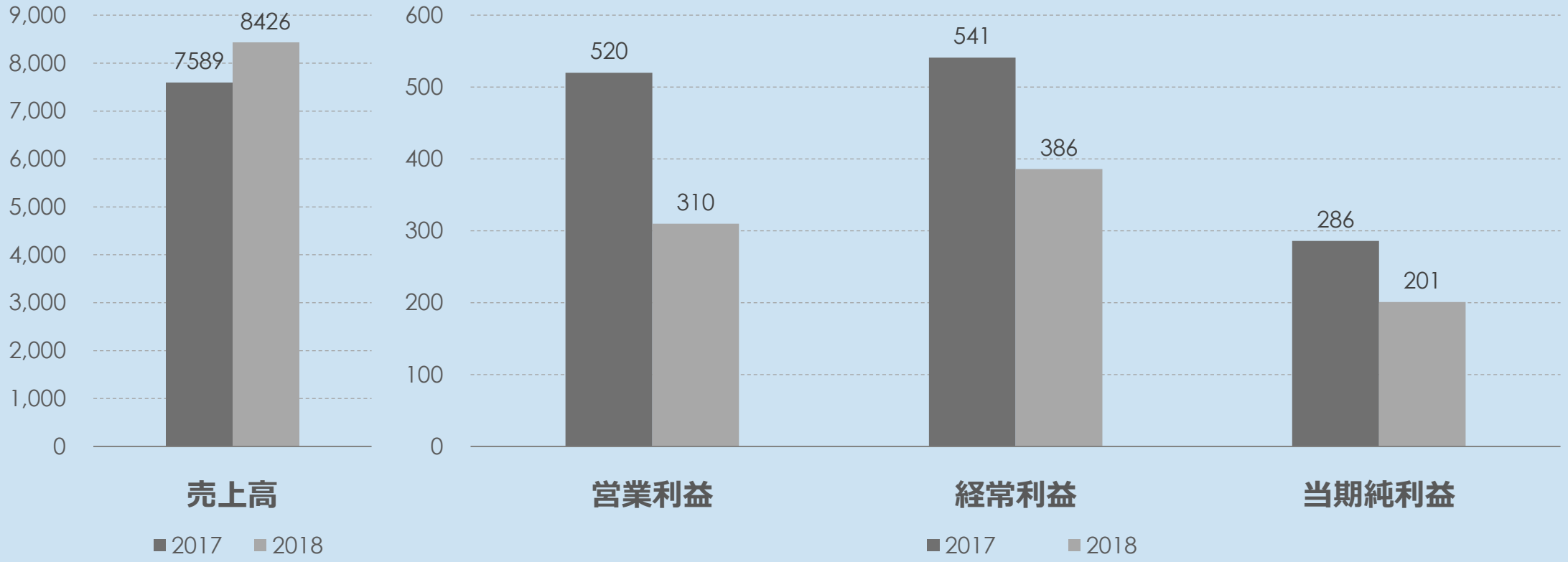
Netflix独占配信アニメ「B: The Beginning」

TVアニメ「進撃の巨人」 Season3

© Kazuto Nakazawa / Production I.G
© 諫山創・講談社／「進撃の巨人」製作委員会

本資料には当社及び当社の関係会社・出資先企業の見通し、目標、予想数値など、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は今後の事業運営、経済情勢、金融市場その他の状況変化等さまざまな要因により大きく異なる可能性があります

2018年5月期 連結決算概要（前期比較）



- 戦略作品「魔法使いの嫁」のヒットにより、版権売上高が約6.5億増加しましたが、映像制作事業において、複数作品の受注損失引当金を計上したこと、及び繰延税金資産の取崩しにより、版権利益増加分と出版利益増加分を相殺した形となり、減益で着地しました

単位：百万円

※受注損失引当金：映像制作事業において、現時点での見積り原価が受注額を超える作品の損失を、将来の損失として引当金計上しております

セグメント別の売上高及び営業利益

2018年5月期

		事業セグメント				合計
		映像制作事業	出版事業	版権事業	その他事業	
売上高	当期	4,596	1,734	1,780	313	8,426
	前期	4,496	1,563	1,174	355	7,589
	増減	100	171	606	▲41	836
	増減%	2.2%	11.0%	51.6%	▲11.6%	11.0%
営業利益	当期	▲686	385	687	14	401
	前期	▲100	259	431	35	626
	増減	-	126	255	▲21	▲225
	増減%	-	48.7%	59.2%	▲59.1%	▲36.0%

受注損失引当金の計上により前年度の営業利益を下回りました

「魔法使いの嫁」のヒットにより、原作販売が好調

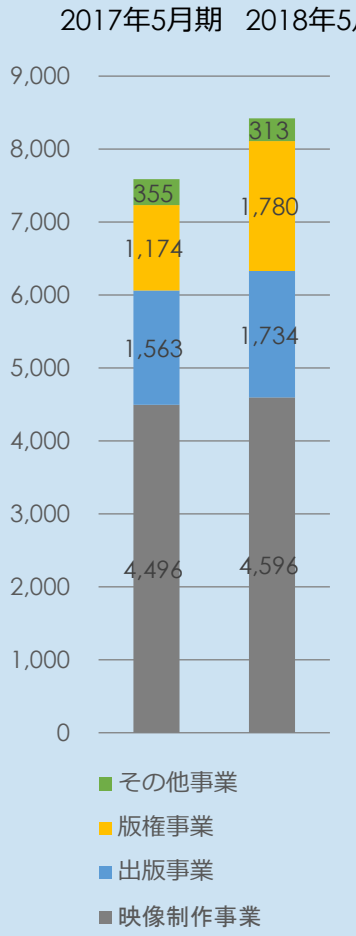
「魔法使いの嫁」による収益で、前年度を大きく上回りました

単位：百万円

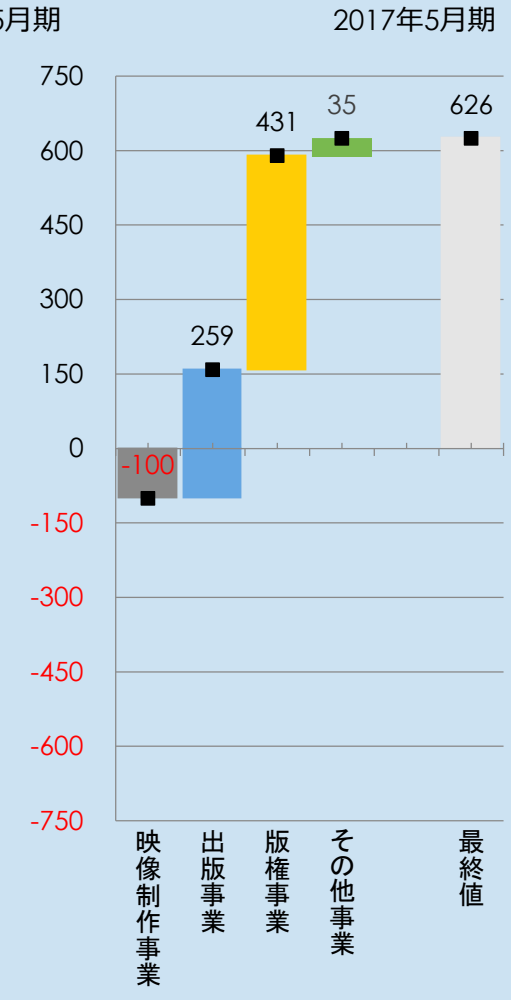
※損益計算書上の営業利益は、本表の営業利益より「のれん償却」と「全社費用」を差引いた金額になり、上記数値と異なります

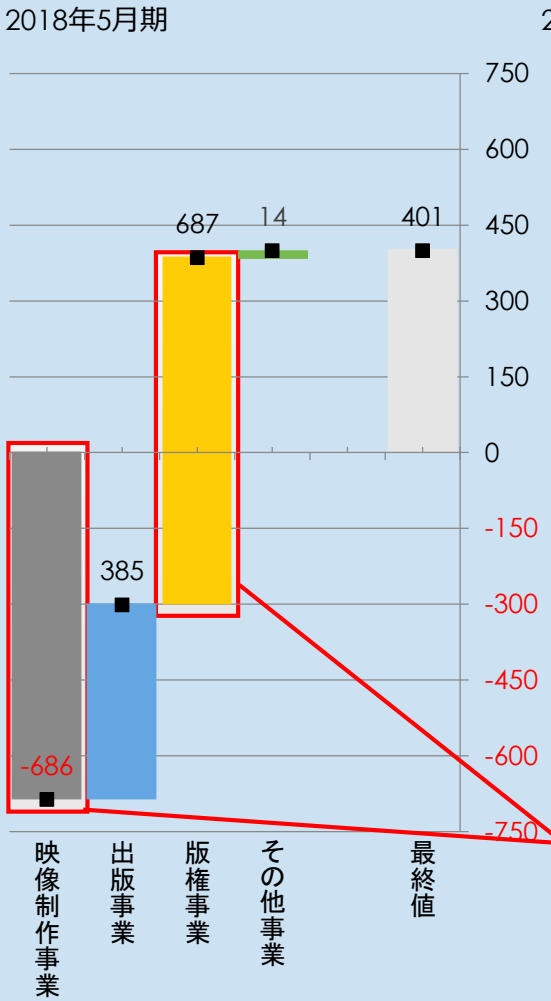
2018年5月期 連結決算概要（前期比較）

売上高

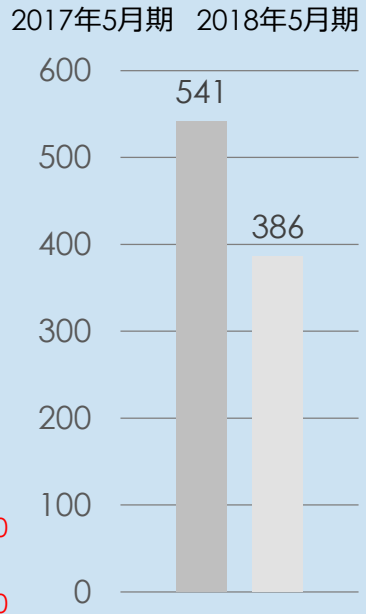


営業利益

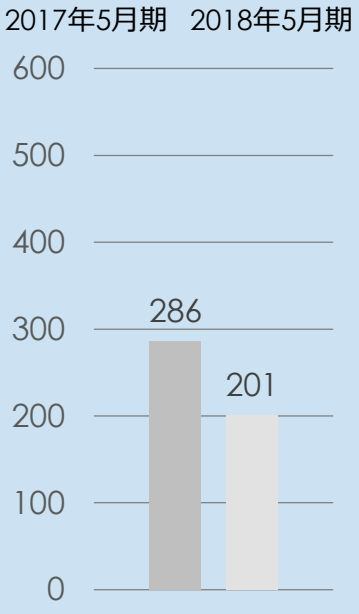




経常利益



当期純利益

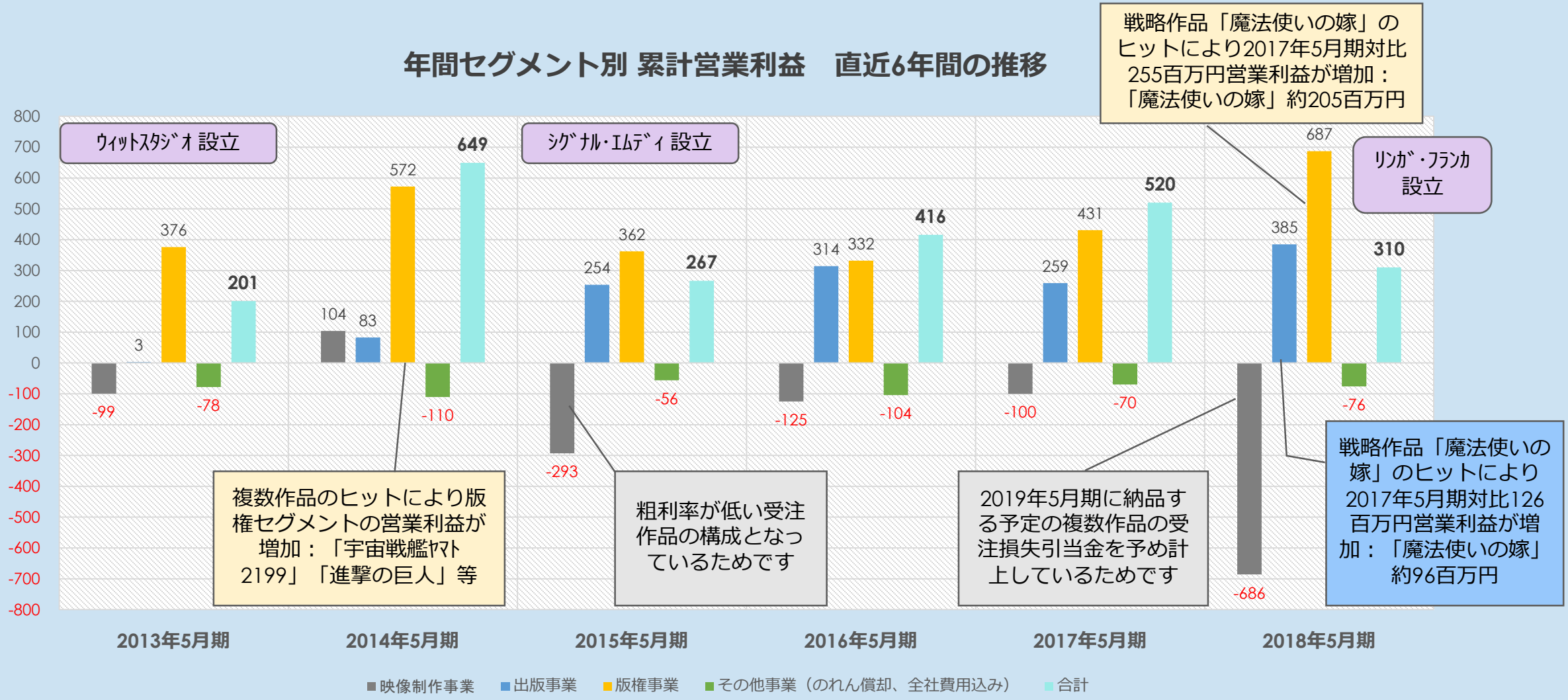


「魔法使いの嫁」のヒットによる版権収入の増加分を、今後納品する作品群の受注損失引当金の計上により、相殺してしまう形になりました

単位：百万円

※損益計算書上の営業利益は、本表の営業利益より「のれん償却」と「全社費用」を差引いた金額になり、上記数値と異なります

セグメント別の営業利益（年度推移）

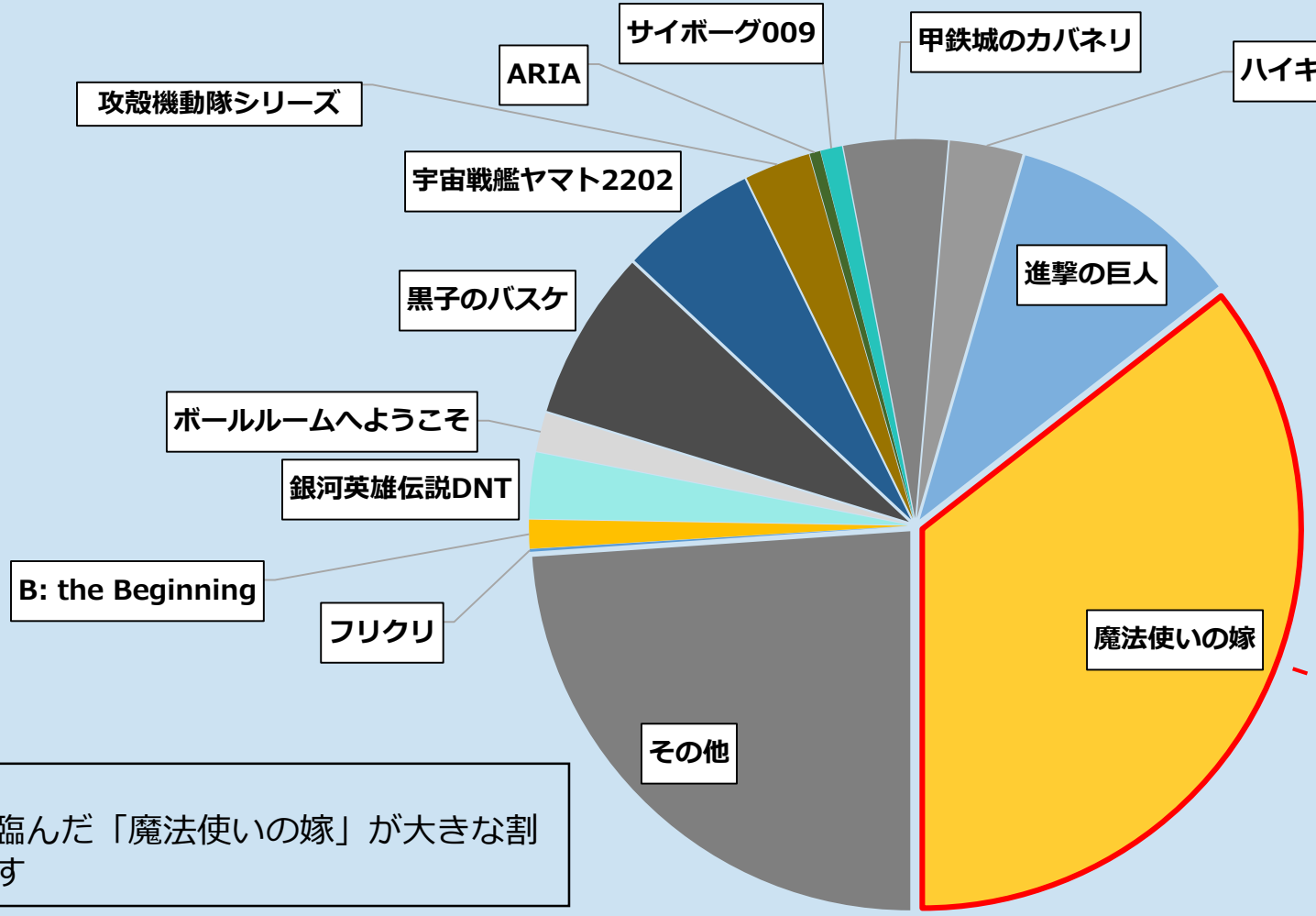


※各セグメントの売上総利益から販売管理費を案分した営業利益の対比となっております

タイトル別の版権売上高構成

2018年5月期

- その他
- フリクリ
- B: the Beginning
- 銀河英雄伝説DNT
- ボールルームへようこそ
- 黒子のバスケ
- 宇宙戦艦ヤマト2202
- 攻殻機動隊シリーズ
- ARIA
- サイボーグ009
- 甲鉄城のカバネリ
- ハイキュー！！
- 進撃の巨人
- 魔法使いの嫁



海外販売　**67.3%**
ネット配信　**11.0%**
Blu-ray/DVD　**7.0%**
国内商品化　**1.2%**
番組販売　**0.6%**
その他　**12.9%**

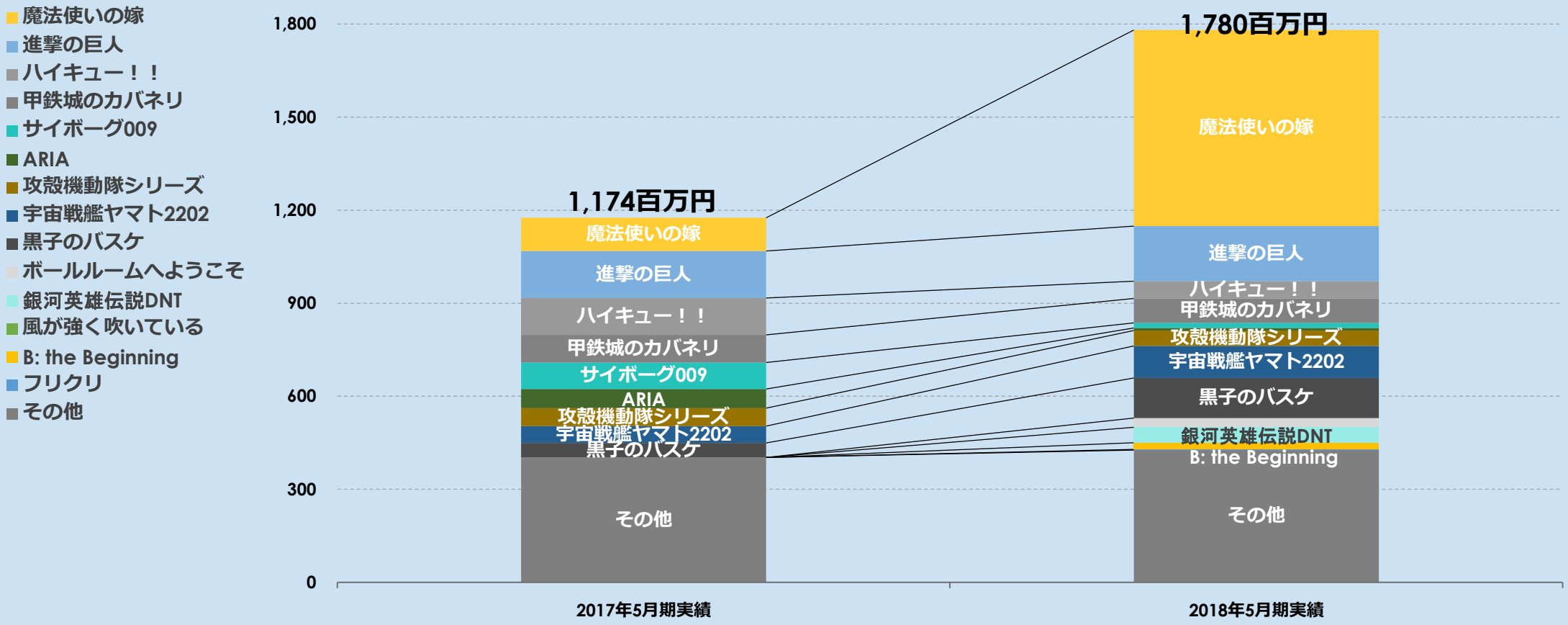
※ Blu-ray/DVDは期中発売の1巻目の収入のみ計上

（2018年5月期）

- 戦略作品として臨んだ「魔法使いの嫁」が大きな割合を占めています

※売上高の対比であり、原価及び販売管理費は差引かれておりません

＜版権収入売上高推移＞ 連結決算概要（前期比較）

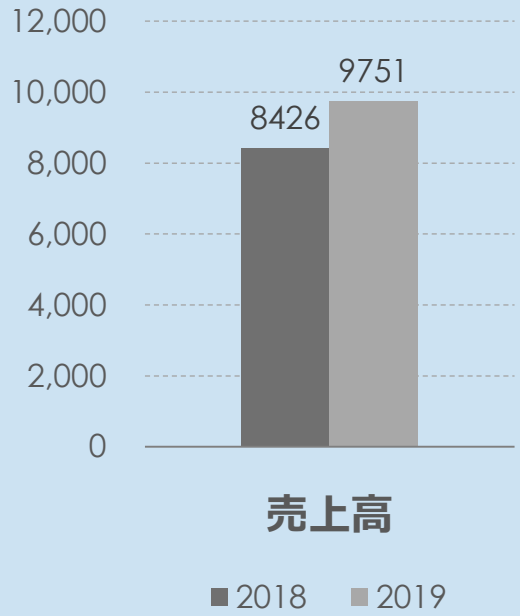


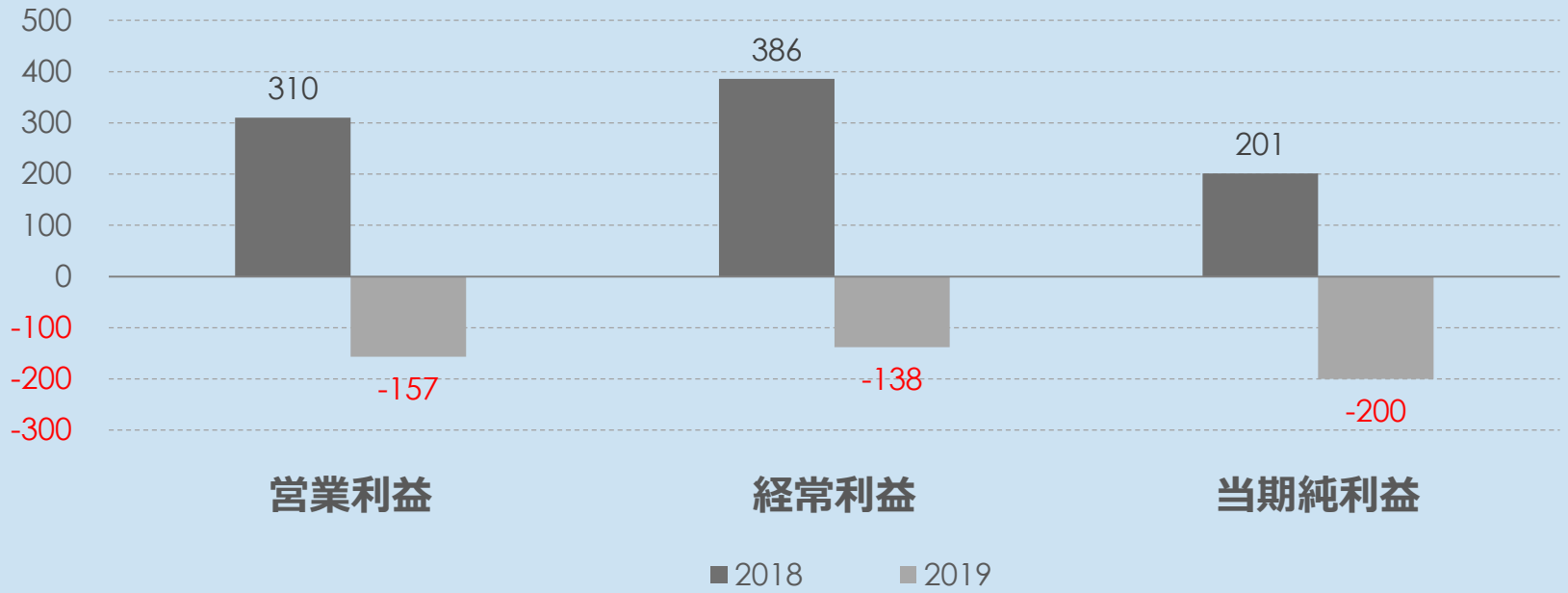
（2018年5月期）

- 「進撃の巨人」と「宇宙戦艦ヤマト2202」の収入は前期に続き堅調です
- 「魔法使いの嫁」は今期に大きな成果を残しました
- 「銀河英雄伝説DNT」は12話ずつの構成のため、版権収入の計上が複数年に渡る見込みになっております

2019年5月期
業績予想

2019年5月期 業績予想





売上高の予測ポイント

- 納品作品の増加により、売上高は増加見込
- 「魔法使いの嫁」の放送終了により版権売上は大幅に下がる見込

営業利益の予測ポイント

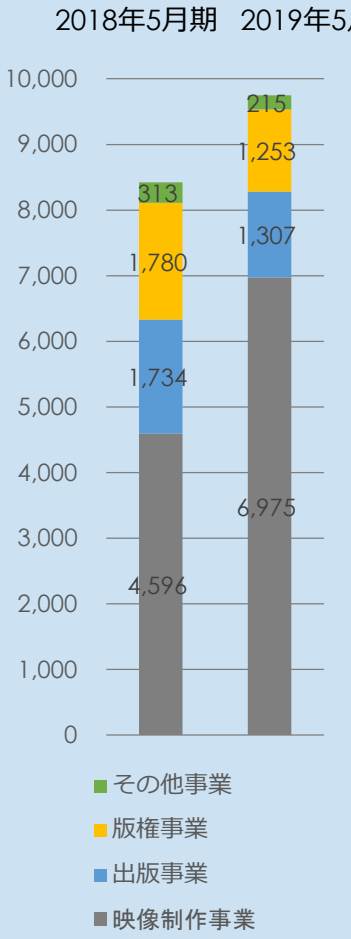
- 版権売上の減少
- アプリ事業の先行投資により販管費が増加
- 新設のリンガ・フランカも先行投資期間

・2019年5月期の売上高は増加するが、利益面では赤字で着地の見込

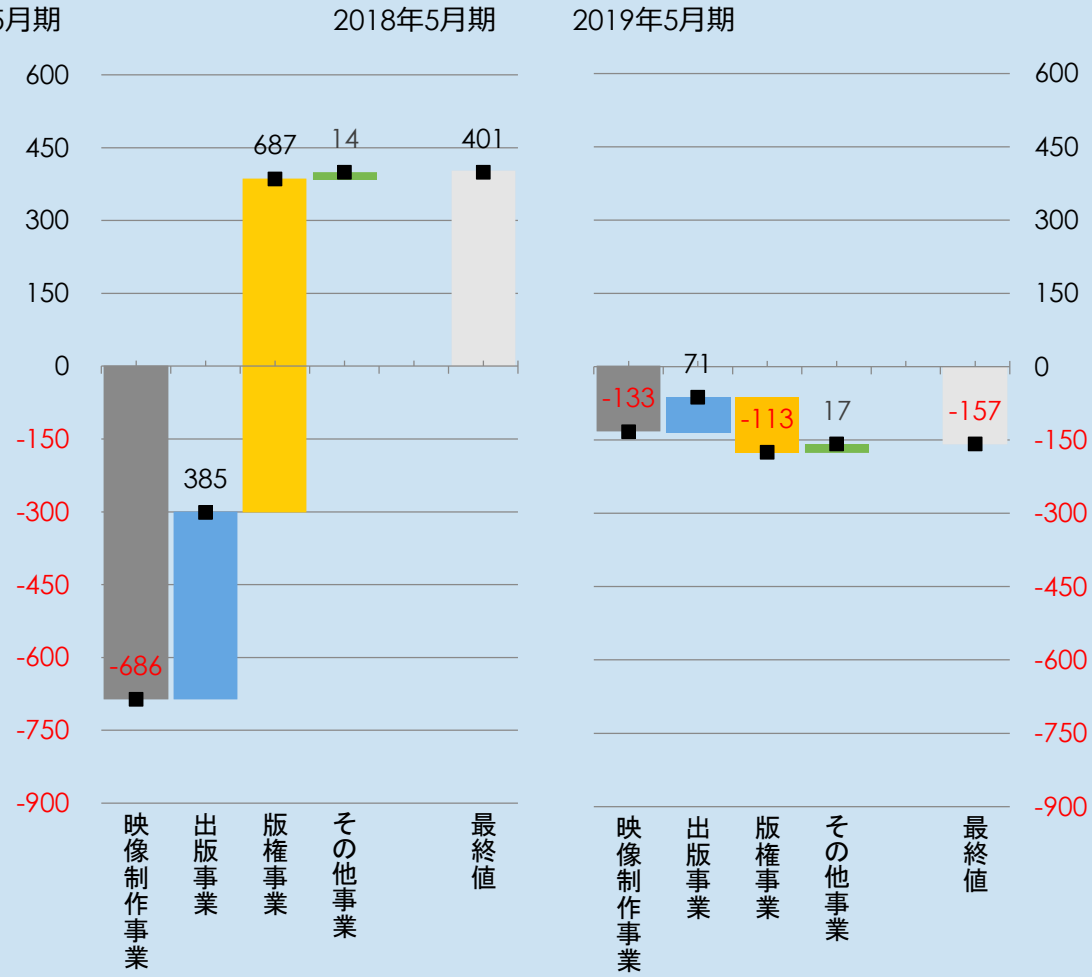
単位：百万円

2019年5月期 業績予想

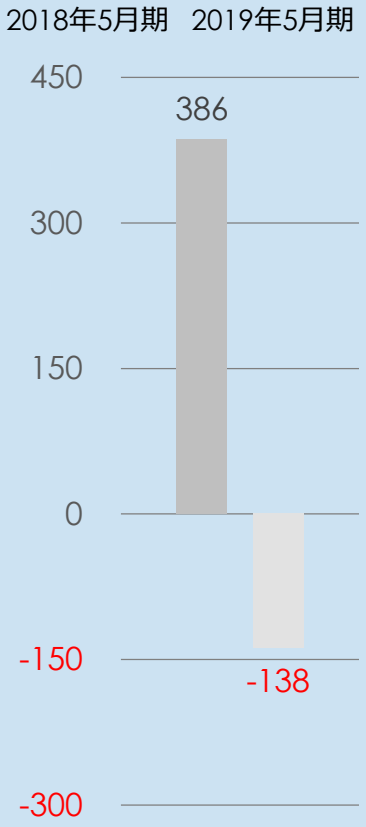
売上高



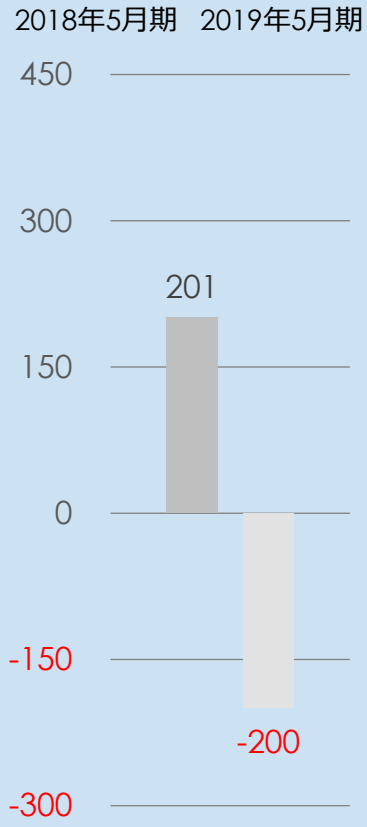
営業利益



経常利益



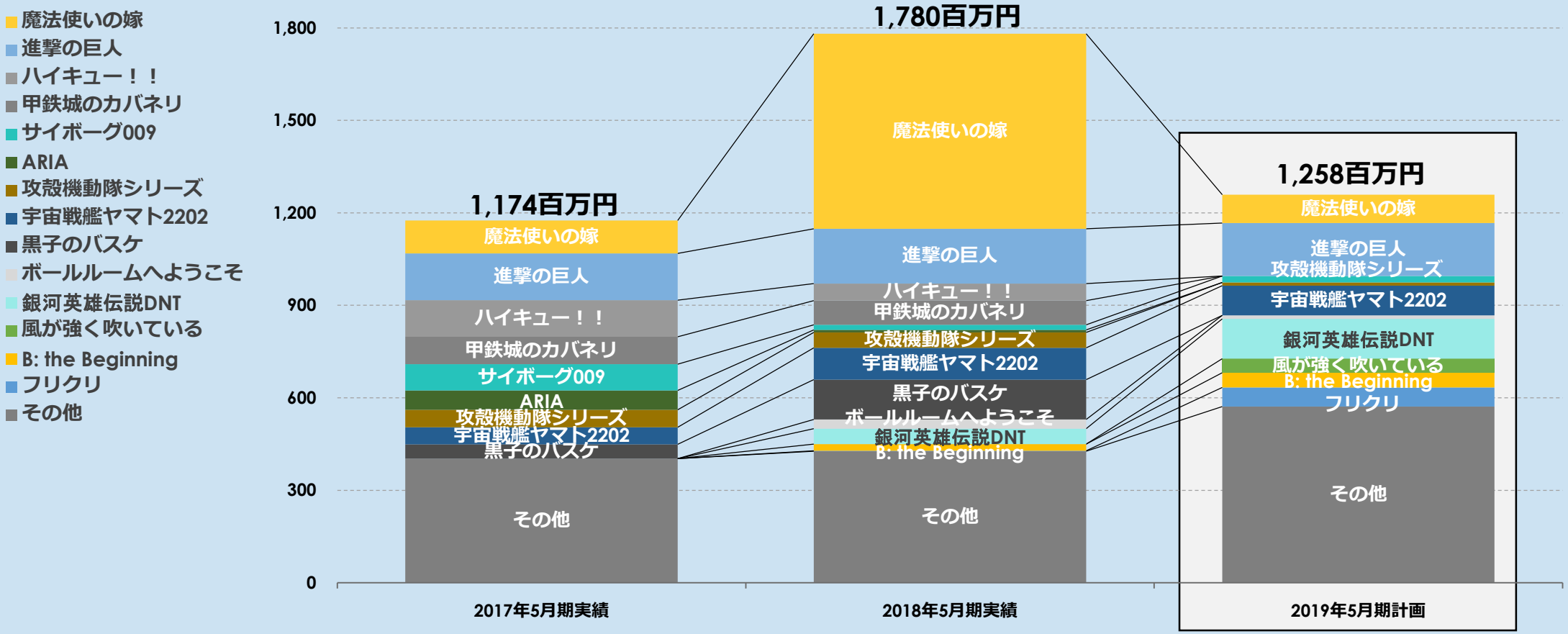
当期純利益



単位：百万円

※2018年5月期の損益計算書上の営業利益は、本表の営業利益より「のれん償却」と「全社費用」を差引いた金額になり、上記数値と異なります

<版権収入売上高推移> 2019年5月期 業績予想



（2019年5月期）

- 「黒子のバスケ」「ハイキュー！！」「魔法使いの嫁」放送終了のため、再び版権収入の端境期となる見込みです

対処すべき課題

今後の動き <対処すべき課題>

厳密な戦略をもって制作した

「**魔法使いの嫁**」シリーズは**制作予算を超過せずに納品できています**が、

今後納品する予定の作品群の制作予算の増加により、

減益となってしまった**構造**が最優先に対処すべき課題と認識

今後の動き＜対策＞

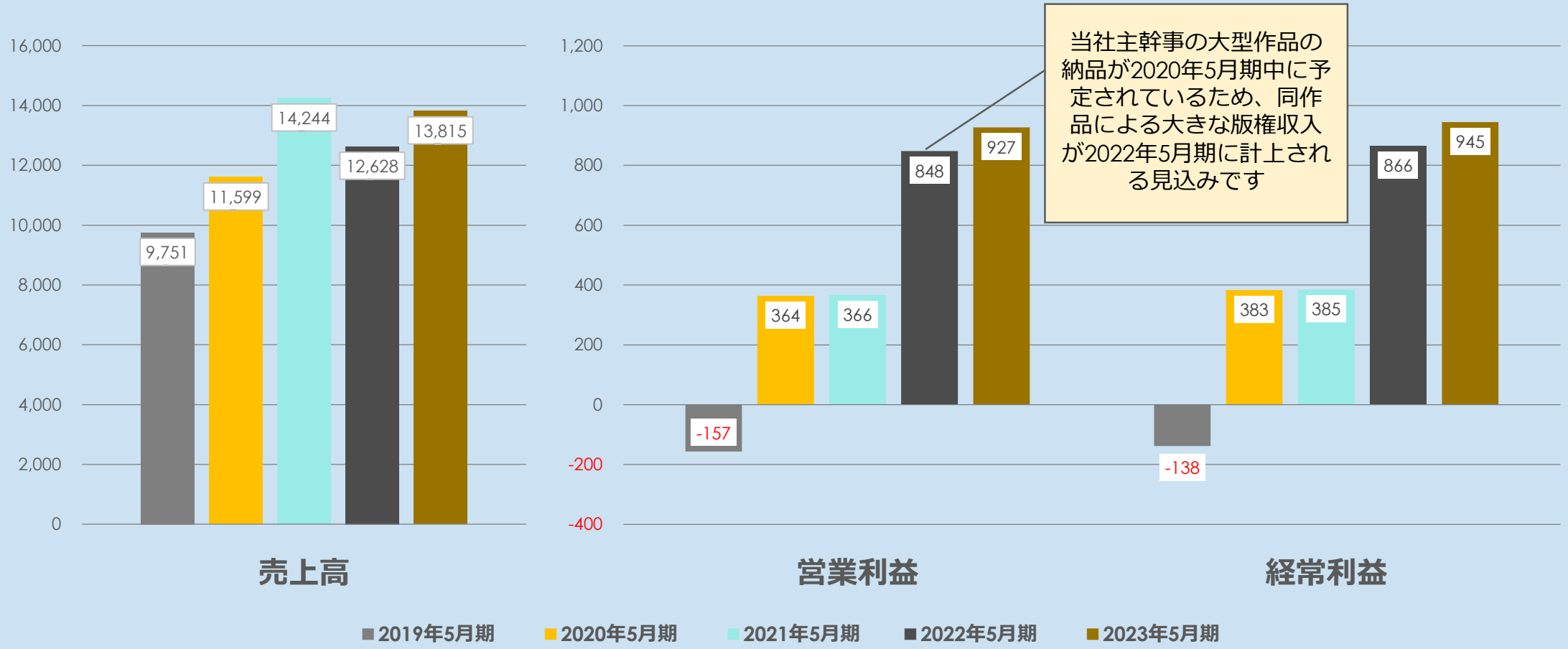
- 映像制作事業において、制作予算見積もりと管理の正確化及び正常化
- 大きなシナジー収益をもたらした「魔法使いの嫁シリーズ」に続くグループシナジー効果を狙う戦略的企画の立ち上げ
- 会社に、より大きな利益を挙げることを推奨するため、グループ利益と連動したプロデューサー評価制度の新設
- 映像制作部門の原価を分散するために、長期継続作品の受注と制作

Topics

- Netflixと包括的業務提携を締結、現在同社との作品企画定例会議を開催
- 株式会社NTTぷららと資本業務提携、スマートフォン用アニメ配信の共同事業の連携を強める
- 新たな小説シリーズ「WITノベル」を刊行、本ノベルシリーズ作品の将来的映像化も視野に入れてIP開発と育成に取り組む
- 2017年11月に完全連結子会社の株式会社リンガ・フランカを設立、当社グループ以外出版社のマンガも配信する「マンガドア」を開始、3年以内に単年度収益黒字化を目指す
- 2017年6月に配信開始したアニメ配信アプリ「タテアニメ」を2018年6月に「アニメBeans」としてリニューアル、現状はまだ先行投資段階
- マンガアプリ内新レーベル「マッグボックス」を創設、新たな読者層の獲得を目指す

中期経営計画

中期経営計画（5ヶ年計画）



- 2019年5月期の連結決算にて、利益面で赤字となりますが、大型作品の制作と投資が計画されており、翌期の2020年5月期以降に再度成長軌道に

単位：百万円